第31回

ていねいな暮らしのあったころ

佐野二彦の撮った伊深の里山

「洗濯①」 昭和37年3月11日撮影

「洗濯」

伊深は、田畑や家沿いに水路が巡っています。それらは主に明治期に作られたものです。その水路を利用して、洗い場であるコウドバが作られ、伊深の人たちは、そこで野菜を洗ったり、洗濯をしたりしました。用途によって場所が分けられ、人々の暮らしの中で大いに利用されました。

右の写真は、コウドバで洗濯をしている様子です。竹製の置き場の上に洗濯物が置いてあります。

左の写真は、川での洗濯の様子です。川では、赤ちゃんの布のオシメは下流の方、肌着や手拭いなどは上流の方というように、洗うものによって場所を地域の人たちで決めていました。また、洗濯板のギザギザのような形のある手ごろな石があれば、その上で洗濯をすることもありました。

冬は、水の冷たさが身に染みるたいへんな作業でした。

「洗濯②」 昭和37年11月17日撮影